

光明禅寺

第 499号

令和六年四月
現在に活きる
仏の教え

電話 22-4127 (2回線)
4391090
79819123
FAX 2413519

(県・市文化財指定安置所)
〒810-0403 指宿市十町南迫田二七六八

四月の行事

挨拶は先手必勝!
しあわせは、きつとあなたのおくそ
ばにある。

困ったことが起きたら、面白いこと
が起きたと言ってみな。奇跡が起
きるから。

だいじょうぶ、心配ないよ。仏さま
がちゃんと見てるから。あなたか
一生懸命頑張ってるの、きつと、
でっかいしあわせまってるよ。

今日も笑顔で福たくさん。

一、晴天竺禅 初一日曜(七日) 朝六時
初三日曜(二十日)

一、釋迦如来御降誕花まつり
八日 二時

一、當寺 開山忌
十三日 二時

一、地藏尊・水子供養
二十四日 二時

お彼岸のお礼

皆様方御多忙中にもかかわらぬ、
御佛壇の準備をして、待っていて下さり、
無事にお彼岸の回向廻りを終る事が出来ました。

有難うございませう。

(郵便局の都合で案内が一週間も係った所があった見たいです。

今後 気を付けて早め目にハガキを投函しようと思っております。

御迷惑をおかけ致しまして申し訳御ざいませんでした。

(尚 お彼岸とお盆の回向廻りは希望者のみに廻らせて頂いております。)

又寺の護持会費(年会費・運営費)等も頂きます。

あつく御礼申し上げます。

◇御援助簿◇

〇〇〇〇様よりお花代を頂きました
皆様方にお知らせ致します。
有難うございませう。

・お釋迦さまはいつ生まれたの

お釋迦さまのお生まれになったのは、
とも昔のことなので確かなことはわかりませんが、
西暦前四八六〜四八三年ごろであった、といわれています。今からおよそ二千五、六百年も前のことです。
そしてその月日については、中国や日本などでは四月八日、タイ、ビルマ、スリランカなどでは五月の満月の日、と伝えられています。四月八日の花まつりを、寒い所では五月八日に行うこともあります。

ネパール国の南部で、インドとの国境

に近い所に、木の多い静かなルンビニー
という公園があって、お釋迦さまはその
ルンビニー園で生まれました。これは後
に、インドを初めて統一したアショカと
いう王さまが、確かにここで生まれら
れた、ということを証明する石の柱を
立てたのでわかったのです。今でもルン
ビニー園に行くことができますよ。

お釋迦さまは王子さまでした。でも
国といっても小さな国でした。日本の県
でいうと、千葉県くらいの広さで、現
在のネパールの国の南部タライ地方の
ネロリコート付近を中心とした地域だそ
うです。お釋迦さまのお母さんは、名
まえをマハーマヤといい、略してマヤー
夫人といひます。インドのゴリヤ国の
執政官の娘として生まれ、カピラ国の
スッドーダナ王に嫁ぎました。長い間、

赤ちゃんが生まれませんでした。が、よう
やく、念願がかないました。赤ちゃんを
産むために、実家に帰る途中のルン
ビニー園で王子(後のお釋迦さま)をお
産みになりました。が、気の毒に、その
七日後に亡くなってしまう。その
ために、育ての親として、このマヤー夫
人の妹のマハーラジャパーティーが当た
ることになりました。ですから、お釋迦
さまには、生みのお母さんと育てのお母
さんの、二人がいた、ということになりま
すね。このどちらのお母さんとも、やさ
しく美しく賢い女性で、国民にとても
愛されたと伝えられています。
お父さんはスッドーダナといって、カピ
ラ城の王さまです。お釋迦さまは、
王さまの歳をとってからの子どもでし
たから、跡継ぎにしようにして、とても

かわいかった。大事に云うてました。また国民にも大変信任が厚かったといわれています。お釋迦さまがおさとりを聞かれた後、カピラ城に行き、王さまと逢うと、王さまはお子さんであるお釋迦さまに対して丁重におもてなしをしたり、お話を聴かれたりしました。そして後に、お釋迦さまのお弟子になられたといわれています。直接の兄弟姉妹はいませんが、育ての親のマーポーラジャヤハティの子に、ナンダという異母弟がいます。また、お釋迦さまには従兄弟がいます。例えば、従兄には、ダイバダツタが、従弟には、アナン、アヌルツダがいます。いずれもお釋迦さまのお弟子になりました。

お釋迦さまがお生まれになったとき、

仏典（お釋迦さまがお話しになったことなどを書いたもの）には、右手で上を、左手で下を指さした、と書かれています。生まれたての赤ちゃんがそんなことができるのかなあってふしぎに思いますね。そのとおりです。できるわけありません。でも、お釋迦さまはふつうの人、並の人ではありません。世界の偉人、聖人の一人に挙げられています。ですから、その偉大さ、偉さ、貴さ、などを強調するために、生まれたりすく、七歩歩いて、天と地を指さし「天上天下唯我独尊」とおっしゃったという伝説がつくられたのです。この伝説の最も大切なことは、上は天から、下は地に至るまで、つまり、すべてということを表しています。すべての中で自分という人間は、たった一人しかいない、とても尊い存在なのだ。これが基本的な人権の思想をあらわしているのです。